

立教大学キリスト教学会報告

(2019年1月～2019年12月)

学校行事

3月12日(火)

第122回幹事会(出席者12名)

2018年度学科1年生交流会報告

2018年度秋の講演会報告

『キリスト教学』60号進捗状況報告

2018年度卒業パーティーについて

2019年度学会大会の日程・プログラム案について

2019年度新入生歓迎プログラムについて

2019年度秋の講演会について

『キリスト教学』61号編集方針について

3月19日(火)

キリスト教学科主催公開講演会

「中国・清時代後期における聖書の受容と解釈—事例研究を通して—」講師：フウイ・リャン氏(浙江大学副教授、リージェント・カレッジ中国キリスト教研究講座ディレクター)

4月2日(火)

キリスト教学科主催公開講演会

「神の沈黙の克服—詩編と預言者における原正典の戦略—」講師：デイヴィット・S・ヴァンダーホフト氏(ボストン・カレッジ神学部准教授)

4月25日(木)

キリスト教学科主催公開講演会

「神の発明」講師：トマス・レマー氏(コレッジ・ド・フランス/ローザンヌ大学教授)

5月25日(土)

キリスト教学科主催公開講演会

「ジョット・ディ・ボンドーネ—中世後期のイタリア絵画における新たな光—」講師：アレッサンドロ・トメイ氏(キエーティ・ペスカラ大学教授)

6月1日(土)

立教大学キリスト教学会2019年度大会〈研究発表〉(司会：加藤磨珠枝)

岡田理香氏「C. S. ルイスと『神話』—ルイス作品に見る『神話創作』としての『キリスト教学』—」

崔元碩氏「伝統物語の系譜学—内村鑑三物語の解体と再創出—」

千ヶ崎祥平氏「イエス・パウロ・初期キリスト教における独身—周辺世界の事例との比較にみる動機の特徴—」

〈講演〉(司会：加藤磨珠枝)

宇井志緒利氏「紛争後のカンボジア社会におけるキリスト教」

〈総会〉(司会：加藤磨珠枝)

1. 2018年度事業報告

2. 2018年度会計報告

3. 役員改選

4. 2019年度予算案審議

5. その他

〈2019年度幹事氏名〉

加藤磨珠枝、長谷川修一、加藤喜之(以上教員)、岩田成就、大石昌孝、金井美彦、倉澤智子、佐々木勉、鈴木淳之介、宮崎知子、村上信児、山田香里、山本剛史郎、渡辺悦子(以上一般会員)、川瀬麻衣、長井隆児、阿部遥、芦名紀菜、亀

井利緒、大木譲、坂野克樹、坂下いづみ、小嶋元、長島沙也加、丹波早雪、橋本奈央、中村愛瑠、吉村美由梨、左分梨奈、小野花、小川将宗、北本磨里、水野百香、大堀正勝、西岡新、藤野結希、カン ムンソク（以上学生会員）

第 123 回幹事会（出席者 15 名）

3 月卒業パーティー報告

ガイダンス時期の新生生相談会の報告

『キリスト教学』60 号発行の報告

2019 年度学会組織・幹事役割分担確認

『キリスト教学』61 号編集方針について

2019 年度秋の講演会（キリスト教学研究科 10 周年記念行事）について

2019 年度学科 1 年生交流会開催について

2020 年度秋の講演会について

7 月 3 日（水）

第 124 回幹事会（出席者 13 名）

『キリスト教学』61 号進捗状況について

2019 年度秋の講演会（キリスト教学研究科 10 周年記念行事）について

2019 年度学科 1 年生交流会開催について

卒業パーティーについて

2020 年度活動計画について

学会名簿について

学生ニュースレターについて

9 月 18 日（水）

学生幹事会主催「キリスト教学科 1 年生交流会」

10 月 26 日（土）

キリスト教学科主催公開シンポジウム

「近世哲学とキリスト教—正統と異端のはざままで—」講師：ハン・ファン・ルー

ラー氏（ロッテルダム大学哲学部教授）、上野修氏（大阪大学名誉教授）、川添美央子氏（慶應大学商学部准教授）、津崎良典氏（筑波大学人文社会系准教授）、長綱啓典氏（日本大学文理学部准教授）、町田一氏（日本ライブニッツ協会）、加藤喜之氏（本学教員）

12 月 6 日（金）

キリスト教学科主催講演会

「スリランカの漁村から—平和をつくり出す人びと—」講師：フランシス・ブリヤンカラ氏（全国漁民連合（NAFSO）トレーニング・コーディネーター）、スランジ・ワサナ氏（ハンウェラ女性組合創設者）

12 月 7 日（土）

立教大学キリスト教学研究科創立 10 周年記念行事

登壇者：月本昭男氏（上智大学神学部特任教授、古代オリエント博物館館長）、廣石望氏（本学教員）、西原廉太氏（本学教員）、菅原裕治氏（日本聖公会東京教区司祭）、佐藤芳哉氏（諸橋近代美術館主任学芸員）、宇津山武志氏（日本聖公会横浜教区司祭）、國友淑弘氏（桜美林大学芸術文化学群非常勤講師）、広瀬由佳氏（桜美林中高聖書科非常勤講師）、秦启蘭氏（貿易会社勤務）、川瀬麻衣氏（本学キリスト教学研究科院生）、三輪地塩氏（本学兼任講師）

12 月 13 日（金）

キリスト教学研究科主催公開講演会

「アジア・キリスト教協議会（CCA）・世界改革派・世界聖公会国際対話（IRAD）広島会議報告会」講師：藤原佐和子氏

〈 学 会 報 告 〉

- (日本ルーテル神学校講師)、西原廉太氏
(本学教員)
- 大杉 昂聖 プラトン『饗宴』におけるア
リストパネスの存在意義につ
いて
- 下谷 和生 信仰の構造分析—フリード
リッヒ・シュライエルマッ
ハーとルドルフ・オットーを
手掛かりに—
- 2018年度キリスト教学研究科前期課程
(ウィリアムズコース) 課題研究報告書題目
- 中島由起子 一段鍵盤パイプオルガンで弾
く礼拝奏楽曲の研究—ジョ
ン・プロウのヴォランタリー
作品の考察から—
- 福山裕紀子 座り込みの内と外—辺野古新
基地建設反対運動を事例に—
- 馬橋 典子 中田羽後とその『聖歌』—『救
いの歌』から旧『聖歌』まで、
「四重の福音」を手がかりに
—
- 2018年度キリスト教学研究科後期課程博
士学位論文題目
- 岡田 理香 C. S. ルイスと「神話」—ル
イス作品に見る「神話創作」
としての「キリスト教学」—
- 崔 元 碩 伝統物語の系譜学—内村鑑三
物語の解体と再創出—
- 千ヶ崎祥平 イエス・パウロ・初期キリス
ト教における独身—周辺世界
の事例との比較にみる動機
の特徴—
- Daewook Kim Prophetic Conflicts in
the Deuteronomistic His-
tory (申命記史書における預
- 会員動向
- 会員数・準会員数 (2019年12月現在)
- | | |
|------------|------|
| 会員 (1) 一般 | 115名 |
| (2) 学生 学 部 | 200名 |
| 大学院 | 24名 |
| 合 計 | 339名 |
| 準会員 | 11名 |
| 総計 | 350名 |
- 文学部キリスト教学科・大学院キリスト教
学研究科報告
- 2018年度文学部キリスト教学科卒業論文
題目
- 可合 美音 出生前診断はいのちの選別か
長谷川叶子 性的マイノリティは私たちの
身近にいる
- 佐保田 彩 『米国の婦人』と The Japa-
nese Bride における田村直
臣の「男女同権」論と実践
- 河田 礼生 刷新され続ける宣教—現代の
宣教を担うポップカルチャー
—
- 大野みどり 全能機能停止と人の死—「脳
死は人の死」はほんとうか—
- 高橋 光 「甲子園」と「高校野球」に
見られる宗教性—聖地として
の「甲子園」、儀礼としての「高
校野球」—
- 鳥海あかり シルヴィア・スレイのヌード
論—フェミニズム批評を超え
て—

言論争)

学科・研究科消息

(2019年1月～2019年12月)

1月5日(土) 冬季休業終了
1月15日(火) 修士論文・課題研究報告書・博士論文中間報告書提出締切
1月23日(水) 秋学期授業終了
2月1日(金) 論文・課題研究報告書最終面接
2月11日(月) 文学部入試
2月21日(木)・22日(金) 大学院キリスト教学研究科入学試験
3月23日(土) 文学部卒業式・卒業礼拝
3月25日(月) 大学院学位授与式
学部卒業生・大学院修了者数
文学部キリスト教学科 42名
大学院キリスト教学研究科
前期課程ウィリアムズコース 3名
後期課程 3名
4月2日(火) 1年次ガイダンス、新入生歓迎会
4月3日(水) 2～4年次・大学院ガイダンス、兼任講師懇親会
4月4日(木) 文学部キリスト教学科、キリスト教学研究科入学式
学部新入生・大学院新入生数
文学部キリスト教学科
1年次 46名
大学院キリスト教学研究科
前期課程
キリスト教学研究コース 5名
ウィリアムズコース 2名
後期課程 1名

4月10日(水) 春学期授業開始
7月19日(金) 春学期授業終了
8月1日(木)～9月19日(木) 夏季休業
9月19日(木) 大学院学位授与式、9月特別卒業式
9月20日(金) 秋学期授業開始
9月28日(土) 大学院キリスト教学研究科博士課程前期課程 秋季入学試験
10月19日(土) 論文・課題研究報告書中間発表会
10月31日(木)～11月5日(火) 秋季臨時休業
11月16日(土) 文学部秋季入試
12月16日(月) 卒業論文提出締切
12月24日(火)～2020年1月4日(土) 冬季休業

人事

大島博特別任用教授、2019年3月31日付で任期満了のため退職。
加藤喜之氏、2019年4月1日付で文学部・キリスト教学研究科准教授として着任。
米沢陽子氏、2019年4月1日付でキリスト教学研究科特別任用教授として着任。
廣石望教授、2019年4月1日付でキリスト教学研究科委員長に就任。
阿部善彦准教授、2019年4月に研究休暇より帰任。
ミラ・ゾンターク教授、2019年度春学期研究休暇。
梅澤弓子教授、2019年度秋学期研究休

〈 学 会 報 告 〉

暇。

黒澤愛氏、2019年4月1日付で学部事務1課キリスト教学科担当職員となる。
依田郁子氏、2019年4月1日付でキリスト教学研究科教育研究コーディネーターとなる。

2019年度菅岡吉記念奨学金奨学生

坂大 真太郎 川瀬 麻衣

2019年度文学部キリスト教学科課程

I. 文学部基幹科目 (A~D)

基幹科目A ー2年次2単位必修
基幹科目B・C・D

ー1~4年次10単位選択

当学科関係者の担当科目は次の通り。

倫理思想 柳堀 素雅子 講師
宗教思想1・2 岩田 成就 講師
ギリシア語1・2 吉田 俊一郎 講師
ヘブライ語1・2 宮崎 修二 講師
ラテン語1・2 村上 寛 講師

II. キリスト教学科専門科目

指定科目A

ー1~2年次8単位自動登録

1年次必修科目 (4単位)

入門演習A 1a 梅澤 弓子 教授
入門演習A 1b 加藤 喜之 准教授
入門演習A 2a 廣石 望 教授
入門演習A 2b 西原 廉太 教授

2年次必修科目 (4単位)

キリスト教学基礎演習A1a 長谷川 修一 教授
キリスト教学基礎演習A1b 阿部 善彦 准教授

キリスト教学基礎演習A2a

加藤 磨珠枝 教授

キリスト教学基礎演習A2b

ゾンターク・ミラ 教授

指定科目B 1 (演習)

ー3~4年次に8単位選択

演習A1 加藤 磨珠枝 教授
演習A2 加藤 喜之 准教授
演習A3 西原 廉太 教授
演習A4 廣石 望 教授
演習A5 ゾンターク・ミラ 教授
演習A6 阿部 善彦 准教授
演習A7 長谷川 修一 教授
演習A8 梅澤 弓子 教授
演習A9 スコット・ショウ 教授
演習A10 本年度休講

指定科目B 2 (フィールドワーク・文献講読) ー2~4年次に6単位選択

フィールドワークA 1 阿部 善彦 准教授
フィールドワークA 2 本年度休講
キリスト教学原典講読1 市原 信太郎 講師
キリスト教学原典講読2 田島 靖則 講師
キリスト教学原典講読3 ゾンターク・ミラ 教授
キリスト教学原典講読4 大野 松彦 講師
キリスト教学原典講読5 藁科 智恵 講師
ヘブライ語原典講読 飯郷 友康 講師
ギリシア語原典講読 吉田 俊一郎 講師
ラテン語原典講読 村上 寛 講師
キリスト教学中級講読1 齋藤 正樹 講師
キリスト教学中級講読2 加藤 喜之 准教授
キリスト教学中級講読3 深田 麻里亜 講師
ヘブライ語中級講読 飯郷 友康 講師

ギリシア語中級購読 吉田 俊一郎 講師
ラテン語中級購読 村上 寛 講師

指定科目C (講義)

— 1～4年次に34単位選択

キリスト教学入門講義1 (聖書1)

長谷川 修一 教授

キリスト教学入門講義2 (聖書2)

山野 貴彦 講師

キリスト教学入門講義3 (キリスト教史1)

寒野 康太 講師

キリスト教学入門講義4 (キリスト教史2)

加藤 喜之 准教授

キリスト教学講義1 (旧約聖書学1)

本年度休講

キリスト教学講義2 (旧約聖書学2)

杉江 拓磨 講師

キリスト教学講義3 (新約聖書学1)

田中 健三 講師

キリスト教学講義4 (新約聖書学2)

本年度休講

キリスト教学講義5 (キリスト教思想史1)

本年度休講

キリスト教学講義6 (キリスト教思想史2)

海老原 晴香 講師

キリスト教学講義7 (比較宗教学1)

本年度休講

キリスト教学講義8 (比較宗教学2)

加藤 喜之 准教授

キリスト教学講義9 (神学思想1)

本年度休講

キリスト教学講義10 (神学思想2)

鳥居 雅志 講師

キリスト教学講義11 (キリスト教倫理学1)
梅澤 弓子 教授

キリスト教学講義12 (キリスト教倫理学2)
本年度休講

キリスト教学講義13 (宗教社会学)

江島 尚俊 講師

キリスト教学講義14 (宗教心理学)

本年度休講

キリスト教学講義15 (キリスト教と教育1)
市川 誠 教授

キリスト教学講義16 (キリスト教と教育2)
本年度休講

キリスト教学講義17 (アジアのキリスト教1)
倉田 明子 講師

キリスト教学講義18 (アジアのキリスト教2)
本年度休講

キリスト教学講義19 (アジアの宗教1)

矢野 秀武 講師

キリスト教学講義20 (アジアの宗教2)

本年度休講

キリスト教学講義21 (キリスト教と美術1)
山田 香里 講師

キリスト教学講義22 (キリスト教と美術2)
本年度休講

キリスト教学講義23 (キリスト教と音楽1)
佐野 隆 講師

キリスト教学講義24 (キリスト教と音楽2)
本年度休講

キリスト教学講義25 (キリスト教美術史1)
大野 松彦 講師

キリスト教学講義26 (キリスト教美術史2)
本年度休講

キリスト教学講義27 (キリスト教音楽学1)
ウィリアム・ドーソン 講師

キリスト教学講義28 (キリスト教音楽学2)
本年度休講

キリスト教学講義29・30 (キリスト教と

〈 学 会 報 告 〉

文学1・2) 本年度休講
キリスト教学講義31 (キリスト教と映画
1) 本年度休講
キリスト教学講義32 (キリスト教と映画
2) 鳥居 雅志 講師
キリスト教学講義33 (キリスト教の礼拝
1) 本年度休講
キリスト教学講義34 (キリスト教の礼拝
2) 宮崎 光 講師
キリスト教学講義35 (キリスト教と現代
社会1) 本年度休講
キリスト教学講義36 (キリスト教と現代
社会2) 平良 愛香 講師
キリスト教学講義37 (日本キリスト教史)
三輪 地塩 講師
キリスト教学講義38 (日本宗教学)
本年度休講

[4 年次履修・合わせて 10 単位]

卒業論文 (制作)

卒業論文 (制作) 指導演習

2019 年度キリスト教学研究科キリスト教
学専攻講義内容

キリスト教学共同演習1・2 全専任教員
専攻所属教員と院生の参加による、研究
発表とそれを巡る質疑応答を通して、各研
究課題における研究上の視野拡大と相互理
解の深化を目指す。

参加する院生が各自の研究テーマについ
て行う研究発表を基本とする。各研究発表
について、全参加者による質疑応答と議論
が行われ、テーマの展開と深化がはかられ
る。それを受けて発表者各自が調査・研究
を進展させ、各自課題の修正と発展内容を

盛り込んだうえで、最終的に論文にまとめ
上げる。

アングリカニズム・エキュメニズム研究
西原 康太 教授
〈アングリカニズムの特質と可能性〉

アングリカニズム (聖公会神学) 及びエ
キュメニズムの基本軸をめぐって、主要な
論点を把握する。

ローマ・カトリック神学やルター、カル
ヴァン等に代表されるプロテスタント神学
と異なり、16 世紀英国宗教改革以降に形
成されたアングリカニズム (聖公会神学)
は、十分に紹介されてきたとは言いがたい。
しかしながら、VIA MEDIA をキーワード
とするアングリカニズムは、実際には、混
迷する現代社会に対しても、大きな神学的
影響を与える可能性を有していると言え
る。

本講座では、アングリカニズムを論じる
テキストを読み解きつつ、講義及び、受講
者の発表、討議を通して、主要な論点を明
らかにしていきたい。また、授業を通して、
エキュメニズムには深く言及されることにな
る。場合によっては、エキュメニズムを
主題とするテキストを通して、アングリカ
ニズムについて議論することもありうる。

キリスト教倫理学研究 鳥居 雅志 講師

現代において問われている倫理的・生命
倫理的な課題に対して、キリスト教倫理学
からどのような応答が可能であるかを模索
する。

倫理的・生命倫理的な課題の中から各参
加者が取り組みたいテーマを一つずつ取り

上げ、発題してもらい、それについて参加者全員で議論する。また、それらの課題に共通していると思われる問題を探り出し、議論を深めていきたい。なお、授業の進め方などに関しては、参加者との協議の上、柔軟に対応していく予定である。

古代イスラエル研究 長谷川 修一 教授
〈Studies in Ancient Israel〉

The course will focus on studies of ancient Israel. Lectures will be given on various aspects of material culture of ancient Israel, from early prehistory to the late Iron Age. The students will be given a thorough Introduction to the archaeology of the Land of Israel and a deep insight into biblical societies, politics, economy and foreign relations. Special focus will be put on the Exodus from Egypt, the conquest of the Land of Israel, the establishment of the United Kingdom under King David and its demise.

The course will include frontal lectures that will give the students tools to understand basic principles in biblical archaeology, to learn about ancient civilizations that resided at the Land of Israel and their material culture remains. The course will give thorough insight to the relation between biblical text and archaeological finds.

原始キリスト教研究 吉田 忍 講師
〈「ガラテヤの信徒への手紙」 「テサロニケ

の信徒への手紙一」 釈義〉

パウロ書簡を原典テキストから釈義することで、釈義の基本を学ぶ。

発表者は、注解書や論文等を参考にしつつ担当箇所の訳および釈義を作成し、それを発表する。その後、参加者全員による検討を行う。

キリスト教史研究 高橋 英海 講師
〈東方キリスト教研究〉

キリスト教についての理解を深めるために、東方キリスト教諸教会の歴史、文化等について学ぶ。

キリスト教は東地中海沿岸に起源を有する宗教である。キリスト教を理解するには西欧のキリスト教だけではなく中東地域やギリシア語圏で展開したキリスト教の世界を知る必要がある。この授業ではおもに中東やそれ以東の地域で展開した東方キリスト教諸教会の歴史、文化等について概観した上で、履修者の興味を勘案して選んだギリシア語、アラビア語、シリア語などのキリスト教文献（原文もしくは翻訳）の講読を行う。

キリスト教美術研究 加藤 磨珠枝 教授
〈キリスト教図像学入門〉

聖書の説話場面を絵画化する試みはギリシア人たちの慣習から始まり、同じ文化圏に暮らしていたユダヤ教徒、キリスト教徒に普及していったと考えられている。この授業では、キリスト教美術の誕生した2世紀以降、長い歴史のなかで育まれてきたキリスト教図像の変遷についてその概要を学ぶ。

キリスト伝や聖人伝などから、いくつかの場面を個別に取り上げて、その美術史的発展をたどる。各受講生には、関連テキストを課題として割り当て、それについての発表を課す。各自の関心領域に合わせて、シラバスに若干の変更が生じる場合がある。

比較宗教研究 久保田 浩 講師
〈宗教学的視座とキリスト教研究〉

「宗教」への学問的アプローチと学問的なキリスト教研究とは、分析上のどのような視座を相互に提供し合えるのだろうか。学際的な志向を内在させている宗教研究の方法論的・理論的議論を介して、キリスト教研究が抱える問題点ならびに可能性を照射し、各自の具体的な研究活動における学問論的反省の重要性を認識する。

宗教研究は19世紀中葉以降、宗教現象や宗教システムを「学問的」に論じることが目的として掲げた比較的若い学問分野である。これは西洋の文脈において、「宗教」を論じる学問としての自己理解を確立していた「神学」との間に対象領域画定を巡る問題が生起せざるを得なかったということの意味している。こうした緊張関係の中に当初から位置し続けた宗教研究が、その後展開してきた（特に20世紀最後の四半世紀以降の）方法論・理論を考察することによって、それらが現在のキリスト教研究に対して果たしうる貢献の可能性と、宗教研究・キリスト教研究の両者が抱える学問論的問題を明らかにする。本授業では、文献（主に英語文献）の講読とそれに基づく発表・議論を行う。

アジア・キリスト教研究 徐 正敏 講師
〈日韓キリスト教関係史〉

東アジアのキリスト教、特に日本と韓国のキリスト教を比較しながらその関係を探求する。

『日韓キリスト教関係史研究』を分析しながらキリスト教からみる日韓関係の歴史を理解する。

フィールドスタディ1 宇井 志緒利 教授
〈非暴力と平和の思想と実践〉

現実社会の課題に対して自らが具体的な役割と責任を担うため、非暴力と平和をめぐる理論と実践を実際の事例から学ぶ。

平和をめぐる様々な課題と論考について、理解を深める。また、平和づくりと非暴力を実践する先人や現在の実践者による、国内外の取組みを考察する。それらが今日私たちが暮らす社会や国際情勢にどのような意味を持つのか、私たちとの関わりを考える。学生はそれぞれの関心に基づいて課題を選び、発題する。授業の他に、学期期間中に1回は、平和・非暴力に関連するイベント・プログラムに参加する。

フィールドスタディ2 宇井 志緒利 教授
〈パウロ・フレイレの教育思想とファシリテーターの実践〉

現実社会に起こっている問題に向き合い、現実社会の課題に対して具体的な役割を担うために必要な、ファシリテーターとしての理念と実践を学ぶ。

パウロ・フレイレの教育思想について学び、教育を切り口に世界の課題を考察する。

自らの経験の振り返りや実践事例研究、実践現場への訪問やグループワークなどを通して、それらの課題に向き合うファシリテーターの基本理念を考察する。後半は、学生それぞれの関心に基づいて、具体的な課題を選びファシリテーターの役割を実践し、自己のファシリテーターとしての資質を高める。授業の他に学期期間中に1回は、テーマに関連したイベント・プログラムに参加する。

キリスト教音楽研究1 米沢 陽子 教授
〈ローマ・カトリック教会の典礼と音楽〉

ローマ・カトリック教会の典礼の二本柱であるミサと聖務日課の概要と、典礼に用いられる音楽について理解を深める。典礼音楽がどのようにして生まれ、歌い継がれてきたのかを学び、典礼における音楽が果たす意味について自ら説明できる。また、その学びを自分が関わる教会の典礼・礼拝に活かすことができるようにする。

基本的に講義形式で進めていくが、いくつかのテーマについては受講生に口頭発表を課す予定である。西洋音楽の源であるグレゴリオ聖歌にも重点を置き、グレゴリオ聖歌がその後の音楽史にどのような影響を与えたのかを考察していく。各回で扱う音楽作品については可能な限りオリジナル楽譜を紹介し、実際に声に出して歌うことも試みたい。また初代教会から21世紀に至るまで典礼の変遷を辿り、現代における典礼音楽のあり方についてのディスカッションの機会も設ける。

キリスト教音楽研究2 米沢 陽子 教授

〈ドイツ・ルター派のコラールとJ. S. バッハの編曲技法—カンタータ、オルガン編曲からの考察〉

ルター派のコラールの歌詞内容を理解し、バッハがカンタータやオルガン作品のなかで歌詞の内容をどのように音として描こうとしたかを、楽曲分析を通して説明することができる。

バッハのオルガン・コラール作品を弾く際、オルガニストは解釈の手掛かりをカンタータとコラールの歌詞に求める。バッハのカンタータや受難曲がルター派のコラールを基にして作曲されていることは周知のとおりである。この授業では、同じコラールに基づくカンタータとオルガン編曲を並べて取り上げ、バッハが共通の「素材」を用いてどのような手法で音楽を作り上げていったかを楽曲分析を通して考察する。基本的に講義形式で進めていくが、いくつかのテーマについては受講生に口頭発表を課す予定である。また必要に応じて演奏実践も取り入れる。

現代神学思想研究 加藤 喜之 准教授
〈ジョン・ミルバンクとラディカル・オーソドクシー〉

現代神学を語るうえで、宗教学におけるポスト世俗主義を語るうえでも避けて通れないのが、英国の神学者ジョン・ミルバンクと彼の牽引する「ラディカル・オーソドクシー」という思想的な運動である。とはいえ、バルト以降の現代神学の発展に加えて、社会思想や形而上学、ひいては中世スコラ神学によって構成される彼の複雑な体系の理解は容易ではない。そこで本講義

では、彼の近年の代表作『世俗的な秩序を超えて』（2013年）を読み解きつつ、ミルバンクの思想とラディカル・オーソドクシー運動の部分的な理解を目指す。

ミルバンクの『世俗的な秩序を超えて』（2013年）を訳し読み解くという作業に加えて、彼の活動とテキストをポスト世俗主義という潮流のなかに位置づけるためにいくつかの二次文献を分析する。

神学思想演習 1 福嶋 揚 講師
〈地球という「ともにくらす家」のためのキリスト教〉

地球は、人間を含むすべての生物が「ともにくらす家」です。この「家」にとって、キリスト教という伝統宗教は、今日どのような役に立てるのでしょうか？この演習は、現代の神学と哲学の重要なテキストを読むことを通して、キリスト教に基づく理念と実践の可能性をグローバルかつローカルに探ることを目標とします。

地球という「ともにくらす家」は今日、貧富差の拡大、生態系破壊、戦争という三重の危機に直面しています。この破滅的な危機を乗り越えて、生態系と人間が共に生き延びるためには、これまでの文明、とりわけ経済成長一辺倒の産業的社会構造からの大転換が必要となります。そのような大転換は、キリスト教という伝統的宗教にとって、新たにもたらされた試練であるだけでなく、実はキリスト教の中にその大転換の種、原動力があります。そのことを現代の神学や哲学の様々なテキストを手がかりとして明らかにします。

神学思想演習 2 梅澤 弓子 教授
〈考究：「聖霊の神学」〉

現代日本における神学の試みから、小野寺功の『聖霊の神学』をとりあげ、その構えと内実を検討するとともに、今後の神学の方向性と可能性を考える。

現代日本における神学的試みのひとつである小野寺功の『聖霊の神学』をとりあげ、詳細にテキストを読み解きながら検討する予定。親和性が高い「無の神学」「場の神学」にも目くばりしたい。テキストは、小野寺功『聖霊の神学』を想定している。尚、テーマ、テキストとも、参加者の研究主題や関心、また社会状況等にに応じて、柔軟に対応する。

進め方としては、毎回一名の担当者がテキストに基づく発表を行い、その後参加者全員で討議と考究を行う。

キリスト教思想史演習 阿部 善彦 准教授
〈ルターとその周辺：宗教改革とは何であったのか〉

キリスト教史におけるキリスト教思想の伝統について学ぶ。それは単なる教会史、教理史の研究以上の現代的意義を有する学問実践となるインパクトを本来は備えている。というのも、現在の様々に複雑化した世界状況において、キリスト教が求められている役割は大きい。しかしながら、現在のキリスト教世界もまた、内部において対立、分裂状況を含んでおり、平和と一致に向けた歩み寄りが大きな課題となっている。そのような時代状況中で、様々な教団教派の歴史と伝統、それぞれの固有性に立脚しつつも、もう一度自らのよって立つと

ころの源泉を再確認することは、自己理解及び相互理解を刷新、深化せしめるとともに、そこに、照古照今、新たにして、古き、キリスト教の対話的相互理解の基盤を探り当てることを可能とするものである。

上記の授業の目的を達すべく、キリスト教思想家のテキストの神学・哲学的思想内容について理解を深める。今年度は宗教改革前後のキリスト教思想を取り上げる。内容は受講者の様子によって変更される場合がある。テキストは日本語訳のあるものを取り上げる予定。

聖書学演習（旧約）1 長谷川 修一 教授 〈申命記史研究〉

列王記の記述を原語で批判的に読みながら、申命記史研究の実際について学ぶ。

列王記上 13 章以降のヘブライ語テキストを、特に編集史・伝承史的観点から批判的に読み進める。授業は受講者の予習に基づく発表とそれについての全員による議論とで構成される。ヘブライ語で聖書を読むこと、英・独語の注解書や学術書・論文を読むことが受講のための必要条件である。

聖書学演習（旧約）2 長谷川 修一 教授 〈申命記史研究〉

列王記の記述を原語で批判的に読みながら、申命記史研究の実際について学ぶ。

列王記上 16 章以降のヘブライ語テキストを、特に編集史・伝承史的観点から批判的に読み進める。授業は受講者の予習に基づく発表とそれについての全員による議論とで構成される。ヘブライ語で聖書を読む

ること、英・独語の注解書や学術書・論文を読むことが受講のための必要条件である。

聖書学演習（新約）1・2 廣石 望 教授 〈『第一コリントス書簡』の釈義〉

『第一コリントス書簡』を原典テキスト（古代ギリシア語）で読み、釈義的に検討する。

『第一コリントス書簡』はパウロの真正書簡のひとつであり、当時のローマ属州アカイアの州都コリントスにパウロ自身が創設したキリスト教共同体に宛てた書簡である（AD 55 年、エフェソスより発送）。都市コリントスはギリシアにありながらローマの要素が顕著であり、商業が盛んで、ユダヤ人を含むオリエント系の住民も多く暮らしており、文化的・宗教的にきわめて多様であった。この多様性を本書簡も反映しており、古代の多文化社会におけるキリスト教のあり方を探る上で、格好のテキストである。

参加者は、各自が担当する現代語による注解書を読んでくる。発表者は、すべての注解書と、その他自由に参照する二次文献を踏まえつつ原典テキストを検討し、独自の釈義を発表する。その後、共同で討論を行う。

宗教史・宗教学演習 加藤 喜之 准教授 〈スラヴォイ・ジジエクのラディカルなキリスト論と普遍主義への誘惑〉

近年、グローバルな資本主義に批判的な思想家たちがキリスト教に注目し、その教義や象徴のうちに現行のシステムを逸脱す

る鍵を見出そうとしている。しかし同時に、彼らの求めるキリスト教的な普遍主義は、それがどれだけ無神論にもとづいていても、普遍的であろうとする限りにおいて、西洋的な価値観の強要、多様性の否定、ヨーロッパ中心主義への傾倒という危険性を含むようにも見える。そこで本演習では、その代表的な論者のひとりスロベニアの哲学者スラヴォイ・ジジェクがキリスト教について論じた三部作に光をあて、彼の思想を批判的に検証したい。

キリスト教の教義や象徴を包括的に扱ったジジェクの三部作『脆弱なる絶対—キリスト教の遺産と資本主義の超克』『信じるということ』『操り人形と小人—キリスト教の倒錯的な核』を日本語訳で読みつつ、場合によっては原典を参照しながら読み解いていく。また、彼の哲学の理解を深めるためにも、いくつかの二次文献もあつかう。

キリスト教文化論演習 1 加藤 磨珠枝 教授
〈中世写本美術の研究〉

西洋中世キリスト教世界でつくられた書物は、すべて人の手によって書写された写本である。なかでも聖書は神の言葉を輝かせるために、時に豪華な装飾と挿絵がほどこざれていた。この授業では、当時の代表的な聖書写本の挿絵を中心に、中世キリスト教美術の諸相を学ぶ。

中世写本はその携帯の容易さから各地へと運ばれ、さまざまな影響を受けながらユニークな装飾芸術を発展させた。授業では、いくつかの写本に注目し、その来歴、芸術表現について解説を行い、文字、文様、挿絵の3つの要素が聖書の物語をどのよう

に輝かせ、人々の理解を促したのかを当時の社会背景も含めて学ぶ。加えて、各受講生には写本についての課題を与え、なお、とりあげる写本については一部変更の可能性もある。

キリスト教文化論演習 2 本年度休講

宗教人間学演習 米沢 陽子 教授
〈エンドオブライフ・ケアと音楽〉

人間の生活と音楽との結びつきを理解し、音楽を通じて人間という存在を捉え直す。音楽を手掛かりに、いかに生き、いかに人生の終りを迎えたいかを考え、自らのエンドオブライフをデザインすることができる。

誰もがいつか迎える人生の終末期。そのとき、あなたは誰とどこでどのように過ごしたいと望むだろうか。そしてどんな音楽を聴きたいと思うだろうか。

授業ではホスピス緩和ケア病棟における音楽療法の臨床で患者さんが聴きたいと望んだ音楽と、そのエピソードを紹介する。音楽の好みはその人のアイデンティティと深く結びついおり、患者さんは大切な思い出、自分のモットー、信仰、死生観をリクエスト曲に託す。患者さんが音楽に託した思いを知り、人間にとって音楽とは何か？という問いに向き合い、考察を深めていく。

アジア・キリスト教演習
ゾンターク・ミラ 教授

〈日本における「市民宗教」と「国民儀礼」をめぐるキリスト教言論〉

近代以降の日本における「市民宗教」と

「国民儀礼」に対するキリスト教界の理解と態度を追跡しながら、今日行われる天皇退位・新天皇即位関連の儀礼が日本および隣国のキリスト教徒にとって持っている意義を考える。

日本国憲法の下で二回目に行われる新天皇の即位関連の儀礼はキリスト教界において議論され、それへの国家の関与、公的資金の使用は憲法違反として批判されている。政教分離の原則を設定している憲法を持つ他の国にも「市民宗教」の存在が指摘されている中で、戦後日本の「象徴的天皇」を中心とした諸儀礼をどのように理解すればよいのか。本演習では、政教分離理論の基本、近代国民国家形成期における天皇の代替りをめぐる伝統の創出、日本キリスト教界と天皇制の歴史的関係性を確認しながら、日本のキリスト教徒は広義の「国民儀礼」、そして代替りの中心的儀礼とされる大嘗祭をこれまでどのように解釈し、どのような問題点を指摘してきたかを追求していく。さらに、これらの問題がアジア諸国とのエキューニカルな関係に与えるインパクトを考える。

宗教教育演習 菱刈 晃夫 講師
〈主に西洋におけるスピリチュアリティ(霊性)と教育との関わり、宗教教育思想について探る〉

スピリチュアリティ(霊性)と教育との関わり、宗教教育思想について歴史的かつ理論的な理解を深めることを目標とする。

主に西洋におけるスピリチュアリティ(霊性)と教育との関わり、宗教教育思想について、テキストや資料を手がかりに歴

史的かつ理論的な観点から明らかにする。代表的な思想家の宗教教育論を中心にして理解を深めていく。

フィールドワーク演習1 宇井 志緒利 教授
〈健康と暮らしを切り口に世界を視る 世界の動向と私たちの課題〉

グローバルな視野を持って自らの取り組みや働きについての意義や位置を捉えなおすため、健康と暮らしを切り口に世界の動向と課題について分析し、理解を深める。

地球規模、特にアジア地域における人々の健康と暮らしを取り巻く状況と課題について考察し、具体的な取り組み特にNGOの活動事例から学ぶ。それらの課題が、どのように日本に暮らす私たちの身近な課題と結びついているかを探る。学生はそれぞれの関心に基づいて課題を選び、学期中に1回は授業の他に課題に関連したイベント、プログラムに参加する。

フィールドワーク演習2 宇井 志緒利 教授
〈カンボジアの人々の村づくりと平和への取り組みから学ぶ〉

アジアの草の根の人々が直面する開発課題と村づくりと平和への取組みについて、カンボジアを事例に現場訪問を通して学ぶ。

事前にカンボジアの歴史と社会背景について理解を深め、各学生が課題を持って現場訪問をする。現地では、村人やNGO、教会関係者らとの対話、ホームステイなどを通して、人々の取り組み・生き方から学ぶ。帰国後は、各自が学んだことをまとめ、共有・発表する。

サーヴィスラーニング1・2

宇井 志緒利 教授

〈学問領域と実社会をつなぐ〉

自発的な思想と奉仕の精神に基づき、一定期間、国内外で奉仕活動を行い、それを通して現実世界での「働き人」としての資質を高める。

サーヴィスラーニングは、学問領域と実社会をつなぎ、学問的知識が実社会で具体的に役割を担うことを通して、学生本人と受け入れ先団体双方が学び合い、強められること（互惠性、Reciprocity）を目指した教育プログラムである。「役割・責任を担うことが人を育てる」（Position makes a person capable）との考え方に立ち、国内外の現場で一定期間具体的な役割・責任を担って奉仕活動を行う。

具体的には、1) サーヴィスラーニングの意味・内容・方法についてのオリエンテーション、2) 学生自身の関心と課題に基づいて国内外のフィールド・受け入れ先を一箇所選定して「計画書」を作成、3) 受入れ先団体の確認が取れた後に奉仕活動を実施、4) 奉仕活動終了後に「報告書」を作成し、学びの共有・還元を兼ねて受け入れ団体と共に振り返り、5) これからの働き人としての新たな出発点を創る。

オルガン演奏法1・2 崎山 裕子 講師
〈キリスト教の礼拝におけるオルガン奏楽法〉

教会での奏楽経験者を対象とし、国や時代、教派によって様々に異なるオルガンの演奏法を学び、教会音楽奉仕者に必要不可

欠な知識と技術を習得する。オルガン演奏や奏楽の初心者を受講の対象としない。「オルガン演奏法1」と「オルガン演奏法2」の両方を受講することが必須。所属する教会の礼拝で実践することを目標とする。

3人を上限とするグルーブレッスンを原則とし、互いの演奏を聴き合うことで、客観的かつ確かな聴力を養う。オルガンの楽曲のみならず、聖歌やチャント、詩編の伴奏法を学び、言葉と音楽の関係性について考察する。楽曲や楽器によって異なる演奏法を習得し、適切な音を選ぶ技術を養う。上級者は、奏楽に必要な編曲法や即興法を課題とする。

合唱・聖歌隊指導法1 大島 博 教授
〈基礎を学ぶ〉

礼拝等における音楽の役割をより豊かにするため、合唱指導の際に必要な知識、技術の基礎を習得することを目指す。

基本的にグルーブレッスンの形をとって実習するが、必要に応じて個別の指導も加える。賛美歌やコラール等を題材に、発声、発音、歌唱法、指揮法の基礎を学ぶ。取り上げた作品についてレポートし、また、受講生同士で模擬練習、指導を体験して、それらに対する意見交換を行う中でより良い指導の道を探る。

合唱・聖歌隊指導法2 大島 博 教授
〈実践力をつける〉

合唱・聖歌隊指導法1で学んだことを踏まえて、より実践的な指導法について実習し、音楽的な表現力を高める。

基本的にグルーブレッスンの形をとって

実習するが、必要に応じて個別の指導も加える。簡単な聖歌やモテットを題材に、音楽的な表現について考え、受講生同士での模擬練習、指導を通して総合的な指導のあり方を探る。

声楽基礎演習 大島 博 教授
〈楽器としての身体〉

人間の体を精密な楽器としてとらえ、声の可能性について考える。そして、賛美歌や宗教的合唱曲を歌うにあたっての発声、発音、歌唱法について、その基礎的な事柄を習得する。

基本的にはグループレッスンの形となるが、随時個別のヴォイストレーニングを織り込み、受講生が自らの問題点に気づき、その解決策を探る手助けを行う。発声、発音について一定の基礎が出来た時点で課題曲に取り組み、それを習得することで、実際の演奏に必要な表現力を身につけることを目指す。

会衆賛美論演習1 米沢 陽子 教授
〈16～18世紀のルター派教会における礼拝と会衆賛美の変遷〉

宗教改革直後から18世紀に至るルター派の会衆賛美の概要を理解し、ルターが実現しようとした礼拝の在り方を考察し、会衆賛美に関する基本的な知識を身に付ける。

宗教改革により「礼拝が刷新され、祈りの言葉も讃美歌もラテン語からドイツ語に変わり、人々は高らかに自分たちの言語で神を賛美した」と一般には捉えられている。それは誤りではない。しかし、当時のルター

の言説からは、ただちに全てがラテン語からドイツ語に移行したわけではなかったこと、会衆がコラールを歌おうとしなかったことが読み取れる。授業ではできる限り一次資料の複製版やファクシミリ版を紹介しながら、ルター派の礼拝の変遷を見ていきたい。演習形式で行ない、割り当てられたテーマについて口頭発表を課す。また必要に応じて演奏実践も取り入れる予定である。

会衆賛美論演習2 米沢 陽子 教授
〈日本におけるキリスト教音楽の歴史〉

日本におけるカトリック教会、プロテスタント教会それぞれの歴史と音楽を知り、礼拝における音楽の意味を考察し、現代の典礼・礼拝における課題に対し自分の考えを述べるができる。

第1～6回は映像資料や録音資料を用いた講義形式とするが、第8～14回は演習形式で行なう。あらかじめ提示されたテーマの中から各自の関心に沿って選択し、口頭発表を行なう。発表で取り上げた讃美歌・聖歌はクラス全員で歌い、ともに理解を深めていく。

教会音楽史演習1 スコット・ショウ 教授
〈英国キリスト教会音楽〉

英国キリスト教会音楽を理解すること。

この授業はイギリス（英国）のキリスト教音楽を説明する。イギリスの宗教音楽は聖歌隊の音楽（特に主教座聖堂とチャペル）、と会衆の音楽（教区教会の音楽）に分けられるため、別々に説明される。この授業は講義形式で行い、音源と楽譜を使用

するため、楽譜を読める必要がある。受講生は宗教改革以前のイギリス礼拝音楽から現在の教会音楽事情まで学ぶ。

教会音楽史演習2 米沢 陽子 教授
〈オルガンとその音楽の歴史（1）15～17世紀のイタリアとドイツ〉

オルガン音楽について、時代や地域、楽器や典礼・礼拝様式との関係から説明することができる。

またオルガン奏楽者は作品に相応しい様式感を身に付けることができる。

この授業では15～17世紀のイタリアとドイツのオルガン音楽のレパートリーを扱う。オルガン音楽は作曲された時代や地域、楽器、典礼・礼拝様式と密接に結びついている。各回で取り上げる作品に対しては、典礼・礼拝様式、楽器、記譜法、楽曲分析からアプローチし、個々の作品がどのように成り立っているのかを考察する。なおオルガン音楽は歌との関係を抜きには語れないので、関連する聖歌の歌唱も随時行なう。演習形式で行なうので、割り当てられたテーマについて口頭発表を課す。また必要に応じて演奏実践も取り入れる。